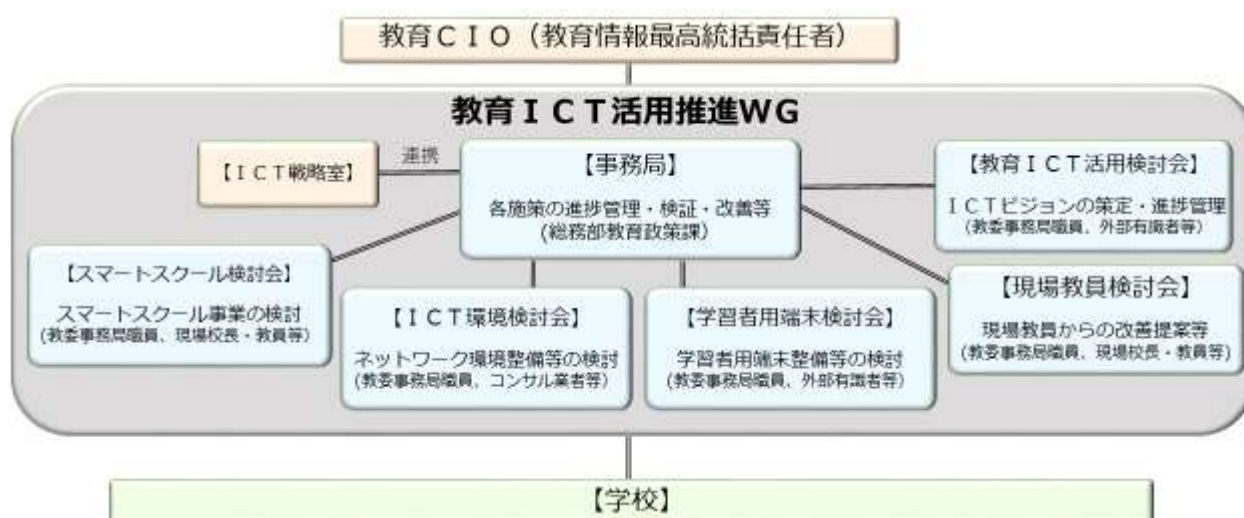


第6章 ICTビジョンの推進体制・進管理

ICT活用の推進体制

- ・ 「問題発見・解決のプロセスにおけるICT活用」、「個別最適な学びにおけるICT活用」「安全・安心な教育環境の実現に向けたICT活用」及び「学びを支えるICT環境の整備」の各施策を確実に実施するためには、学校内外における支援体制の充実が必要不可欠です。
- ・ また、社会情勢や本市の実情、情報通信技術の進展等に合わせて、適宜計画内容の見直しを図ることも必要です。
- ・ そのため、本計画の着実な推進及び不断の見直しを図るため、教育CIO（教育情報最高統括責任者）のリーダーシップのもと本計画を確実に実施していくために、教育ICT活用推進ワーキンググループが中心となり、各施策を進捗管理・検証・改善し、PDCA サイクルを循環させることにより、最適なICT教育が推進されるよう、適宜、ビジョンの継続的な見直しを進めていきます。
- ・ あわせて、大阪市教育振興基本計画の最重要目標の達成に向け、各校が重点的に取り組む目標である「全市共通目標」の一つであるICTの活用に関する目標を、各校の状況に応じ、運営に関する計画において設定し、検証・改善を図りながら学校運営を行っていきます。

（図表 19 ICT活用の推進体制）



(参考資料)

用語集

【学習系システム】

児童生徒の演習やワークシートや作品など、学校が保有する情報資産のうち、それら情報を学校における教育活動に活用することを想定しており、かつ当該情報に教員及び児童生徒がアクセスすることが想定されている情報を取り扱うシステムのこと。

(参考：文部科学省「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」)

【学校教育ICT推進リーダー】

ICT教育のスペシャリスト教員として、担当教員への助言、教員研修等に従事する教員のこと。

【キャリア・パスポート】

児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのこと。

(参考：文科省ホームページ「キャリア・パスポートの様式例と指導上の留意事項」)

【教育支援センター】

不登校児童生徒の学習の場を提供するための施設。不登校児童生徒の活動の成績への反映や進路指導を効果的に行い学習機会の確保と進路保障を実現し、社会的自立をめざすことを役割としている。

【教育DX（デジタルトランスフォーメーション）】

学校が、デジタル技術を活用して、カリキュラムや学習のあり方を革新するとともに、教職員の業務や組織、プロセス、学校文化を革新し、時代に対応した教育を確立すること。

【教育ビッグデータ】

ビッグデータは、典型的なデータベースソフトウェアが把握し、蓄積し、運用し、分析できる能力を超えたサイズのデータをいい、教育ビッグデータは主に、児童生徒の行動記録データや学習履歴データなどのこと。

（参考：総務省「平成 24 年版 情報通信白書」、文部科学省「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）」）

【クラウドサービス】

従来は利用者が手元のコンピュータで利用していたデータやソフトウェアを、ネットワーク経由で、サービスとして利用者に提供するもの。

【校務系システム】

児童生徒の成績、出欠席及びその理由、健康診断結果、指導要録、教員の個人情報など、学校が保有する情報資産のうち、それら情報を学校・学級の管理運営、学習指導、生徒指導、生活指導等に活用することを想定しており、かつ、当該情報に児童生徒がアクセスすることが想定されていない情報を取り扱うシステムのこと。

（参考：文部科学省「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」）

【スタンダードモデル】

各学校に整備されたハード・ソフト両面での ICT 学習環境、人的支援のあり方、実践事例やカリキュラムをまとめたもの。

【標準学力検査 C R T】

絶対評価法に基づく標準学力検査のこと。

【不登校特例校】

不登校児童生徒を対象とする特別の教育課程を編成して教育を実施する学校のこと。

【プログラミング的思考】

自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合わせが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力のこと。

【学びのポートフォリオ】

児童生徒一人一人の能力や適性に応じて個別最適化された学びの実現に向けた、学習履歴等を個人ごとに蓄積したもの。

(参考：文部科学省 Society 5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇談会 新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース「Society5.0に向けた人材育成」)

【マルチメディアデイジー教科書】

通常の教科書と同様のテキスト、画像を使用し、テキストに音声をシンクロ（同期）させて読むことができるもの。

(参考：(公財)日本障害者リハビリテーション協会ホームページ)

【無線アクセスポイント（無線AP）】

ノートパソコンやスマートフォンなどの無線LAN接続機能を備えた端末を、相互に接続したり、有線LANなど他のネットワークに接続したりするための機器のこと。

【A I】

人工的にコンピュータ上などで人間と同様の知能を実現させようという試み、あるいはそのための一連の基礎技術のこと。

【C－N E T】

Osaka City Native English Teachers。大阪市教育委員会が任用する大阪市外国語（英語）指導員のこと。

【C B T】

Computer Based Testing の略。コンピュータを使った調査のこと。

【EdTech】

教育におけるA I、ビッグデータ等の様々な新しいテクノロジーを活用したあらゆる取り組みのこと。

(参考：文部科学省 Society 5.0 に向けた人材育成に係る大臣懇談会 新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する省内タスクフォース「Society5.0に向けた人材育成」)

【I C T】

Information and Communication(s) Technology の略。情報通信技術のこと。

【ICT教育アシスタント】

主に教材作成の支援を行う支援員のこと。

【ICT教育推進アドバイザー】

授業改善・ICT教育推進の指導助言を行う非常勤職員のこと。

【LAN】

Local Area Network の略。ケーブルや無線などを使って、同じ建物の中にあるコンピュータや通信機器、プリンタなどを接続し、データをやり取りするネットワークのこと。

【SINET】

国立情報学研究所が構築・運営する世界最高速級の学術通信ネットワークのこと。

【Society5.0】

狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会のこと。（参考：内閣府ホームページ）

大 阪 市 学 校 教 育 I C T ビ ジ ョ ン

令和 2 年 3 月

(令和 4 年 3 月改訂)

大阪市教育委員会事務局総務部教育政策課

〒530-8201 大阪市北区中之島 1 - 3 - 2 0

e-mail:ua0078@city.osaka.lg.jp